

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市アートセンター	評価対象年度	令和4年度
事業者名	川崎市文化財団グループ ・代表者 公益財団法人川崎市文化財団 理事長 瀬戸豊彦 ・構成員 昭和音楽大学グループ 代表者 学校法人 東成学園 (昭和音楽大学) 理事長 下八川共祐 構成員 株式会社プレラーディオ 代表取締役 石井郁朗 ・構成員 学校法人 神奈川映像学園 (日本映画大学) 理事長 富山省吾	評価者	市民文化振興室長
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または昨年に変更した取組 ※〔 〕内は〔昨年度〕実績

利用実績	令和4年度総入場者数(小劇場+映像館):58,480人〔50,129人〕 <b>1 アルテリオ小劇場</b> 入場者数:16,097人〔12,137人〕 (他、ライブ配信を実施した公演における視聴者数 2公演180人〔1公演93人〕) 利用可能日数: 347日〔347日〕 利用日数実績: 242日〔214日〕 日数別利用率: 69.7%〔61.7%〕 公演等回数: 179回〔164回〕 主催事業: 14事業48公演〔12事業48公演〕 うちワークショップ等事業: 2事業10回〔2事業 8回〕 共催事業: 2事業23公演〔3事業15公演〕 提携事業: 4事業13公演〔3事業17公演〕 貸館: 37団体94回〔24団体68回〕 <b>2 アルテリオ映像館</b> 入場者数: 41,023人〔36,503人〕 利用日数実績 : 317日〔322日〕 日数別利用率 : 92.2%〔92.8%〕 映画上映事業 : 246作品1,411回〔218作品1,332回〕 上映支援事業 : 1回〔0回〕 バリアフリー上映 : 27回〔14回〕 ワークショップ事業 : 13回〔12回〕 トーク等開催事業 : 26回〔15回〕 貸館 : 8回〔10回〕 アルテリオ・シネマ会員事業 1,437人(令和5年3月31日現在)〔1,422人(令和4年3月31日現在)〕 <b>3 その他貸館件数(1日3区分別)</b> 楽屋 670回〔569回〕、映像編集室0回〔0回〕、録音室225回〔134回〕、工房628回〔532回〕、研修室470回〔367回〕
収支実績	<b>1 事業活動収支</b> (1) 令和4年度事業活動収入 261,021千円〔229,655千円〕 (2) 令和4年度事業活動支出 258,077千円〔237,404千円〕 <b>2 投資活動収支</b> (1) 投資活動収入 6,664千円〔0円〕 (2) 投資活動支出 1,468千円〔5,080千円〕 <b>3 法人税・住民税及び事業税</b> 0円〔0円〕 <b>4 当期収支差額</b> 8,138千円〔▲12,830千円〕 <b>5 前期繰越額</b> 9,172千円〔22,003千円〕 <b>6 次期繰越額</b> 17,312千円〔 9,172千円〕
サービス向上の取組	(仕様書にはない取組等) <b>【施設の特徴を活かした公演の工夫】</b> ○平成30年度から小劇場と映像館の複合施設という特色を活かしたコラボ企画を実施している。5回目となる今年度は、無声映画の楽しみ方の一つとして、ヨーロッパで広く普及している「伴奏つき上映」を児童・青少年と大人向けに分けて作品を選定し、幅広い世代が楽しめる内容で実施した。 ●開館15周年記念事業として、フランス映画「どん底 4Kレストア版」の配給権を購入し、日本語字幕、ポスター・チラシ・パンフレット、予告編を制作して上映したほか、海外児童劇団を2団体招聘し、芸術文化を楽しめる機会を創出した。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	12	3 (R03 3) (R02 3)	7.2	
		利用者満足度は向上しているか				
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか				
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4 (R03 3) (R02 4)	6.4	
		当初の事業目的を達成することができたか				
<p>(評価の理由)</p> <p><b>【利用者満足度】</b>            ○利用者の満足度について、主催事業アンケートでは85%が「大変満足」「満足」だったほか、ワークショップ等では、89%が「絶対また参加したい」「また参加したい」と概ね高かった。            ●利用者の意見を把握するため、主催事業等のアンケートに加え、QRコードによるウェブフォームアンケートを新設し、来場者が普段チェックしている情報源や取り入れてほしいサービスなどの意見収集を行った。            ●アンケートで得られた上演に対する情報収集源等を分析するなど演目ごとに変わる来場者傾向を把握し広報計画や企画検討に活用した。            ●課題となっていた映像館来場者の意見収集について、開館15周年記念事業の際、新たにアンケート実施した結果、映像館チケットについて、窓口販売のみのところを小劇場と同様にウェブ予約も選択できるようにしてほしいと希望する声が多いことが分かり、利用者満足度を向上する取組として、ウェブ予約のためのシステム導入に向けたプロジェクトチームを発足し研究を開始した。            ●アンケートの分析を行い、コロナ禍でお客様からの要望が高まっていた窓口でのキャッシュレス決済を令和5年3月に導入したことにより、映像館・小劇場・窓口でキャッシュレス決済できるとともに支払方法の選択肢が増え、利用者満足度の向上につながっている。            ○利用者からの意見等を反映し、点字ブロックの増設や小劇場の客席階段への手すりの設置等、快適に映画や演劇を楽しんでいただける環境整備のフィードバックを適切に行った。</p> <p><b>【事業成果】</b>            ●コロナ禍が継続する中、入場制限や貸館のキャンセルも発生したが、モリエール生誕400年に合わせ、演劇界で注目されている演出家を起用した「人間ざらい」がNHK-BSで放送されるとともに、開館15周年記念事業として、フランス映画「どん底 4Kレストア版」の配給権を購入するなど、魅力ある企画に取り組んだ結果、令和4年度通算での主催・共催事業等の入場者数は、小劇場が16,097人、映像館が41,023人となり、令和3年度からは回復傾向となった。また貸館においても、対前年で増加し施設利用収入が改善した。            ○特定事業の川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)は、3年ぶりの本格開催で実施した。また、KAWASAKIしんゆり映画祭においては、共催者として会場の提供だけでなく、地域と連携した芸術のまちづくりへの支援を行った。これらの催事を支える市民ボランティアを、アートボランティア育成事業という形で支援し、市民が鑑賞者として芸術を楽しみ、催事運営でも活躍できるサイクルが定着しており、アートセンターの基本方針を達成している。            ○各種ガイドラインに則り、必要な感染症対策を行いながらワークショップ事業、アートボランティア育成事業等を実施した。</p>						
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (R03 4) (R02 4)	6.4	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	4 (R03 3) (R02 3)	4.8	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3 (R03 3) (R02 3)	3.6	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	<p>(評価の理由)</p> <p><b>【効率的・効果的な支出】</b>            ●小劇場、映像館の主催事業、特定事業等について、コロナの影響を受けながらも可能な限り事業計画に基づき、適切にサービスを提供した上で、消耗品費の計画的な支出や経費削減、広告宣伝費の継続的な経費削減を図った結果、事業活動支出は、約258,077千円で、予算額より約9,218千円削減することができた。また、「人間ざらい」の制作委託や「どん底」の配給権の購入により、収入につながる効果的な支出を行った。</p> <p><b>【収入の確保】</b>            ○入場者数は、コロナ禍前の高い目標としたため予算額は下回ったが、対前年度で上回り、入場料収入は、約52,670千円と昨年度の約48,489千円より、約4,182千円増加した。また、貸館は、件数、利用日数ともに増加し、予算額、対前年度比ともに上回る収入となった。            ●収入増の取組として、芸術文化振興基金補助金(映像タイムマシン)、文化芸術振興費補助金アートキャラバン事業(親子で楽しむ夏時間2022)、神奈川県マグカル展開促進補助金(コラボレーション企画)、劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場事業におけるしんゆり寄席、しんゆりジャズスクエア、ファミリーシアター、ベイビーミニシアター等を対象)や新規にUNIFRANCEから助成金を受け、総額13,173千円を取得し、コロナ禍において収入確保の取組を行った。            ●モリエール作「人間ざらい」を上演したことで、公共放送での収録が決定し、放送権料約5,280千円の大きな収入につながった。</p> <p><b>【適切な金銭管理・会計手続】</b>            ○会計手続は公認会計士事務所のアドバイスを受けながら適正に処理されており、金銭管理は適切なチェック体制により厳格に管理している。</p>					

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	公演等の自主事業企画が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (R03 4) (R02 4)	9.6	
		貸館事業について基本方針に基づいて適切に提供されたか				
		アートセンターの基本理念等に基づき、地域と連携したサービスが提供されたか				
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか				
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか				
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか				
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4 (R03 3) (R02 3)	4.8	
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか				
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (R03 3) (R02 3)	4.8	
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
	(評価の理由)					
	<b>【適切なサービスの提供】</b>					
	○小劇場、映像館ともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、主催事業については、可能な限り仕様書・事業計画に基づき、必要な感染症対策を行いながら適切に上演・上映した。					
●貸館事業について、年度の前半を中心に、コロナ禍によるキャンセルの影響を受けたが、対前年で増加し、施設利用料収入が改善傾向がみられた。						
○「これまでの芸術のまちづくりを継承し、発展させるアートセンターに」という基本理念に基づき、「しんゆり寄席」等の主催事業を通し「リージョナルシアター」として継続的に地域へ伝統芸能・音楽催事の提供を行うとともに、「しんゆりジャズスクエア」において、地元の昭和音大とのコラボレーション企画により、将来が期待される若手演奏家の活躍の場を提供した。また、特定事業である「アルテリッカしんゆり」とアートボランティアの育成を目的とした「アート講座」の連携により、市民が芸術を鑑賞するだけでなく、ボランティアとして芸術を支援するなど地域と連携したサービスの提供を行った。						
○外部団体(日本児童・青少年演劇劇団共同組合)と連携し主催事業として実施したベビーミニシアターや、小中学生が参加できる、演劇・映画双方に渡る夏休み・春休みワークショップ、地元の高校向けのアウトリーチワークショップ、放課後シアター等、地域における子育て・青少年育成の面でも意義のある企画を行った。小中学生から高校生までを対象とした、これらの多種多様な企画は、若い世代に舞台芸術や映画・映像芸術への興味・関心を高める機会を提供するとともに、コロナ禍において学生生活を送る青少年へのコミュニティ参加の機会提供という点でも評価できる。						
○コロナ禍で紙媒体が敬遠される状況の中、小劇場では主催公演情報等(投稿総数1,799件)、映像館では、上映内容・時間を毎日発信(投稿総数2,351件)し、Twitter等のSNSを活用した利用者への継続的な情報発信に取り組み、アカウントフォロワー数が小劇場は、1,776人、映像館は、6,081人と増加した。						
●主催事業において、「しんゆり寄席」と「しんゆりジャズスクエア」の「年間パスポート」を3年ぶりに再開するとともに、会員組織「アルテリオシネマ会員」に対し、アルテリオシネマニュース等のDM発送により情報発信を継続して行った。また、映像館の舞台挨拶・トーク企画は、新たな利用者に会場へ足を運んでいただくための認知度の向上の取組として機能しており、今年度は回数を倍増して実施し付加サービスの取組を行った。						
<b>【業務改善によるサービス向上】</b>						
●アフターコロナを見据え令和3年度に整備したV-LANの活用について、小劇場の主催事業2公演で配信を行った。さらに、満員となった映像館イベントの館内別会場でのリアルタイム放映、複数の会場を繋いだシンポジウム、オンラインボランティア説明会など、配信以外にも活用するなど、サービスの向上につながった。						
●従来から課題把握していたキャッシュレス決済を導入したことにより、支払方法の選択肢が増え、違算防止につながった。						
●上映作品の選択の幅を広げるため、映像館のコンセプトに合う公開済みのシネマコンプレックス上映作品を試験的に上映したところ、新たな観客層を取り込むことができ、業務改善を図ることができた。						
<b>【利用者の意見・要望への対応】</b>						
○地域の利用者の意見掌握の目的で、地域の団体や機関で構成されるアートセンター運営協議会を実施し、館全体では、週1回、運営会議を開催し、スタッフの間での現状把握、情報共有を行うとともに、小劇場と映像館との連携強化、業務改善の取組等について検討を継続して利用者ニーズの把握に努めた。						
●正面入口付近への自由意見箱の設置や、小劇場来場者へのアンケート等、利用者意見のヒアリングに努めているが、課題となっていた映像館来場者の声を把握する機会として、開館15周年記念ポスタープレゼントの際に新たにアンケートを行った。また子ども向け公演においては、お子様が楽しく回答できるよう、お絵かきや出演者への手紙の要素を盛り込むなど、来場者が楽しみながらアンケートを提出できる取組を実施し、回収率が増加した。						
●ウェブフォームを活用したアンケートを開始し、新たな利用者意見・要望の収集のための接点づくりに努めた。						
●小劇場が見やすさを優先した傾斜の大きな特徴的な構造であるため、以前、客席の一部に設置し好評だった「手すり」を客席の全範囲に設置した。						

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	4 (R03 3) (R02 3)	4.8
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3 (R03 4) (R02 4)	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか	4	3 (R03 3) (R02 3)	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (R03 3) (R02 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	4	3 (R03 3) (R02 3)	2.4
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	3 (R03 3) (R02 3)	1.2
	<p>(評価の理由)</p> <p><b>【適正な人員配置、連絡・連携体制、再委託管理】</b>  ○館長、副館長のほか、劇場ディレクター、映像館ディレクターなど、必要な人員が仕様書に即して配置され円滑に業務が行われた。  ●川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)の体制を見直し経験豊富な事務局長を新たに配置するとともに、専用性の高い広報担当が加わったことにより、体制を強化することができ、地元の情報媒体だけでなく音楽専門誌にも情報提供することにより、全国に発信することができた。またアートセンターが取り組む講座事業等の企画力向上やアートセンターの発信につながった。  ○週1回アートセンター職員による運営会議を開催する他、月1回川崎市と指定管理者関係者による連絡調整会議を行い、各事業の進捗状況・結果の報告、業務改善の検討などを行っている。内容は所管課へ文書等で報告され、情報の共有化を図っている。さらに、アートセンター館長・副館長・総務担当と市民文化振興室職員による定期的な会議を実施しており、連絡・連携体制が十分に図られている。  ●再委託先との連絡調整、適正な監視・確認体制がなされている。また、バリアフリー上映を進める視点で、川崎市障害者優先調達推進方針に即し、バリアフリー上映広報宣伝のための点訳及び点字印刷の発注を地元の障害者施設(地域活動支援センター)に再委託し、連携調整を適切に行った。</p> <p><b>【担当者のスキルアップ】</b>  ○スタッフが講座や研修に参加し、劇場管理、運営、企画等業務知識の習得やスキルアップに努め、オンラインでの研修にも積極的に参加するなど、様々な観点から実践的なスタッフ教育を実施した。  ○全国公立文化施設協会のアートキャラバン助成事業として、ACO沖縄を中心とした全国ツアーに参加することで、公立文化施設間での連携の構築や、事業を通じたスタッフ育成につながった。  ●キャッシュレス決済について、「ミュージアム川崎シンフォニーホール」「神奈川芸術劇場(KAAT)」など市内外の文化施設を視察・意見交換を行った上で研究し、導入を実現させた。  ○映像館スタッフが「全国コミュニティシネマ会議」に参加し、新しい時代の映画のあり方や映画上映振興策、支援策の必要性について、全国各地の映画上映者らと情報交換を行い、その内容を施設運営に活かすため、スタッフとの情報共有を行った。</p> <p><b>【安全・安心への取組】</b>  ○事故・災害発生時の対応マニュアルの役割分担等に基づき取り組み、防災総合訓練を実施し、緊急時に備えた適切な安全対策をとっている。また、専門家(医師)による職場巡視を初めて行い、利用者等の安全確保や施設の適切な管理について改善を図った。</p> <p><b>【コンプライアンス】</b>  ○前売りチケット取扱い等で個人情報を扱うことから、川崎市文化財団の個人情報保護方針に則り、厳重に個人情報を管理し取扱うことを周知徹底している。</p> <p><b>【職員の労働条件・労働環境】</b>  ○指定管理者である川崎市文化財団は、平成29年度から財団の将来を担う人材の確保と育成に努めるとともに長期雇用やキャリアアップに配慮した就業規則に改正し、賞与の支給制度を設けており、職員の労働条件・労働環境の整備に積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>【環境負荷の軽減】</b>  ○市の方針に従い、環境負荷軽減型商品の調達の実行、エネルギー利用量のモニターを行い、こまめな消灯と節水を励行し電気・水道などのエネルギー使用量の削減に努め、環境に配慮した業務実施に努めている。</p>				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	3 (R03 3) (R02 3)	10.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
		<p>(評価の理由)</p> <p><b>【施設・設備の保守管理】</b>  ○施設・設備の保守管理については、専門業者に再委託することで適正に実施されており、修繕については、基本協定に基づき適切に実施されている。  ●点字ブロックを増設し、バリアフリーのさらなる推進を図り、お客様が安心して利用できる取組を実施した。</p> <p><b>【管理記録の整備・保管】</b>  ○業務記録、修繕記録等を適切に行い、保管している。</p> <p><b>【清掃業務、警備業務、外構・植栽管理、備品管理】</b>  ○新型コロナウイルスへの対策として、各施設の利用終了時には人が触れる部分の消毒や換気の実施、施設各所には消毒液の設置などの対応を行った。  ○清掃業務、警備業務、植栽管理等の施設・設備の保守管理業務については、専門業者に再委託することで適正に実施されており、備品管理についても、基本協定に基づき適切に管理されている。</p>			

#### 4. 総合評価

評価点合計	70.4	評価ランク	B
-------	------	-------	---

R03 64.4

R03 C

R02 66.0

R02 C

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市アートセンターは、芸術文化の創造、発信及び交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供し、もって市民の芸術文化の発展に寄与することを目的として設置した芸術文化施設であり、運営方針として、第1に「新しい芸術文化を創り発信する(創る)」こと、第2に「芸術文化の担い手を育てる(育てる)」こと、第3に「市民が質の高い芸術文化を楽しむ(楽しむ)」こと、第4に「ネットワーク型アートセンターコアとして芸術のまちづくりをリードする(ネットワークする)」こと、第5に「効果的・効率的運営をして、持続させる(効果的運営)」ことを掲げており、全体評価にあたっては、この運営方針ごとに評価を行う。

第1の(創る)については、「できる限り、市民の芸術活動を止めない、同時に鑑賞機会を奪わない」というコロナ禍において掲げた方針に即し主催公演の実績を積み重ねた。「しんゆりシアター」では、モリエールの生誕400年に合わせ、将来を嘱望される若手演出家による「人間ざらい」を上演し、市民による「劇団わが町」では、古典的名作の舞台を新百合ヶ丘に置き換え、地域に根差した独創的な演目として上演した。また、小劇場と映像館を併設する芸術発信拠点ならではの、演劇と映画のコラボレーションなどの個性的な企画や、外部団体との連携による海外児童劇の招聘等により、幅広い層を対象とした新しい分野の開拓も行っている。

第2の(育てる)については、特定事業である「アルテリッカしんゆり」と、アートボランティア育成を目的とした「アート講座」の連携により、市民が芸術を鑑賞するだけでなく、催事運営にも参加するサイクルの定着に寄与しており、「KAWASAKIしんゆり映画祭」においては、共催者の立場で、多くの市民ボランティアが参加して実施する催事の支援を行っている。また、小中学生から高校生までを対象とした、演劇、映画などの多種多様なワークショップ企画は、アートセンター内での実施だけでなく、アウトリーチ企画として学校に向いて実施しており、若い世代の舞台芸術や映画・映像芸術への興味・関心を高めるとともに、コロナ禍の影響が残る中で学生生活を送る青少年にコミュニティ参画のきっかけを提供する試みともなっている。

第3の(楽しむ)について、地元ゆかりの作家やミュージシャンが出演する、主催事業の「しんゆり寄席」「しんゆりジャズスクエア」は、定番企画として評価を得ており、コロナ禍を経て再開した年間パスポートも好評だった。また、ベイビーシアタープロジェクトの、子供の発達段階に合わせて楽しめる演目や、配慮の必要な子供を対象とした公演の設定は、幅広い市民にアートに触れる楽しさを提供する取組である。また、映像館では、世界各国の新作・名画・秀作の上映にあたり、バリアフリー上映や、映画監督や出演者によるトーク企画の実施回数を増やし、より多くの市民への鑑賞機会の提供と、多様な映画の楽しみ方の提案に取り組んだ。

第4の(ネットワークする)については、指定管理グループが、川崎市文化財団、新百合ヶ丘を本拠地とする昭和音楽大学、日本映画大学が連携する組織体制であることを活かして地域と良好な連携を行っており、それぞれの大学で学ぶ学生たちに、表現の場や、インターンを通じた社会経験の場も提供している。また、アートボランティア育成事業は、アルテリッカ等の催事を起点とした市民同士のネットワークやコミュニティ形成のきっかけとして機能しているほか、共催・提携事業を継続的に実施していることにより、地域の芸術団体や学校等との協力関係が深まり、芸術による地域の文化振興にも貢献している。

第5の(効果的運営)について、コロナ禍による座席制限、貸館のキャンセルの影響や、人件費・高熱水費の高騰等、収支を圧迫する状況において運営を工夫し、可能な限り計画に基づいて事業を実施した。積極的な補助金取得の取組は、収入確保だけでなく主催事業の充実にもつながり、利用者視点を重視した更なるバリアフリーの推進や、キャッシュレス決済の導入等の効果的な支出を行いながら、収支改善につなげた点は評価できる。

以上のことから、令和4年度は、概ね適正に指定管理業務を実施することができたといえる。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・利用者満足度調査について、令和4年度末から新たに開始したウェブフォームによる施設利用者アンケートを活用し、より多くの利用者の意見収集を行うこと。また、従来実施していたアンケートと合わせ、調査・分析手法を継続的に改善し、分析結果を迅速に施設運営に反映することで、利用者満足度向上を目指すサイクルを定着させること。また、運営協議会等を通じ、地域からの意見を継続的に取り入れること。

- ・アルテリオシネマ会員のサービス拡充による会員増や小劇場における会員組織立ち上げを検討すること。また、映像館小劇場ともに、幅広い利用者層に向けた効果的な情報発信のために、ホームページ、SNSの積極的な活用をさらに進めること。

- ・コロナ禍で進めたデジタル化について、V-LAN環境のさらなる活用、公演のチケットレス化、上映のウェブ予約等、利用者サービス向上につながる取組を確実に実施すること。

- ・かわさき・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)、KAWASAKIしんゆり映画祭、アートボランティア育成事業などで育んだ、地域団体や市民ボランティアなどとの地域の芸術のまちづくりのネットワークは、「芸術のまちづくりを継承し、発展させる」というアートセンターの基本理念に即していることから、更なる連携、コラボレーション機能を強化し発展させること。

- ・小劇場・映像館におけるワークショップ事業については、小学生から高校生までが映像・舞台芸術に触れ、体験する機会を提供することにより、芸術文化に対する感性や創造性を育てる効果が期待できることから、引き続き多くの参加者が受講できるよう取り組むこと。

- ・開設から16年が経過し、施設・設備の経年劣化が見られる点について、的確に状況を把握し計画的に施設修繕等を行い、持続可能な施設維持に努めること。

- ・コラボレーションスペースについて、アートセンターの基本理念や運営方針に沿ったさらなる活用を進めること。

- ・主催事業等を着実に執行し、入場者が増えるような施設運営を行うこと。